コロナ禍における学生向けアンケートの結果に関する一考察

A study on the results of a questionnaire for students in the COVID-19

渡　辺　恭　子　　濱　田　邦　博　　桐　原　健　真

Kyoko WATANABE　　Kunihiro HAMADA　　Kenshin KIRIHARA

Ⅰ．緒言

新型コロナウイルス感染症（以下COVID-19）が多くの大学生の生活に少なからぬ影響を与えたことは周知の事実である。2021年５月25日づけ文部科学省高等教育局からの「新型コロナウイルス感染症に係る影響を受けた学生等の学生生活に関する調査等の結果について」の文書でも，オンライン授業・学生の経済状況・悩みといった観点からその影響の大きさが報告されている。また，先行研究において以下のようなCOVID-19による影響が報告されている。廣瀬（2020）はCOVID-19による活動制限が学部生の大学生活において不安感を抱く要因となっていると述べている。江原（2021）は，学生を対象とした調査結果から，半数以上の学生が感染への不安を感じており，多くの学生が学生生活への影響に不安を抱いていたと述べている。加えて，飯田（2021）はコロナ禍における大学生の精神的健康の悪化を示唆している。また，末次（2021）はストレスや疲弊感が増加傾向にあると指摘しており，同様に梶谷（2021）は文献研究を通じて大学生のメンタルヘルスや生活に悪影響を及ぼしたという先行研究が多いと述べている。一方で，北條（2020）はコロナ禍でも主観的幸福度に大きな変化は認められず，不慣れな，そして不便な生活という環境の中でも工夫を凝らしながら幸福度を維持していると結論している。

筆者らは，これらの研究動向を踏まえ，2020年末から翌年初頭にかけて，金城学院大学IR室（学内におけるInstitutional Researchを担当する部署）を中心として，学生の学習や学生生活での現状や希望，コロナ禍における状況変化などを把握し，今後の改善や有効な学生支援のあり方を模索する目的で各種アンケートを実施することとした。具体的には，全教員・大学院生，そして学部学生という三つのグループそれぞれを対象としたものである。本論文では，このうち学部学生を対象としたアンケート（「コロナ禍におけるアンケート」）から類推されるCOVID-19による影響と学生生活における様々な要因との因果関係を分析し，その結果から，直面する課題の改善や有効な学生支援の方法について考察する。

Ⅱ．対象と方法

⑴　対象

対象は2020年度に金城学院大学５学部（文学部・生活環境学部・国際情報学部・人間科学部・薬学部）に在籍していた学生5,111名である。

⑵　調査方法

調査期間は2020年12月14日（月）～2021年１月６日（水）で，全学部生に対し，金城学院大学が提供する学生向けポータルサイト（K-PORT）とメールサービス（K-mail）を通して，Google Formでのアンケートへの回答を求めた。なお，上記期間を２期に分け，未回答者にはIR室から再度回答を促した。

本調査は，金城学院大学IR室が，教学マネジメントや学生生活の改善・向上のために実施している各種アンケートや試験等の一環として行われたものである。こうした取り組みについては，倫理的配慮として，同大発行の『学生ハンドブック～Printemps～』（全員配布）において，あらかじめ周知しているところである。具体的には，①調査データについては，厳重な管理のもとでの収集・分析を経て，教育の質と内容を保証・改善するための調査研究のみに使用されること，②これらのデータは統計的に処理され，個人は特定されないこと，③分析結果や研究結果は大学ホームページや学会等で公開することがあること，④データ提供を断った際にも不利益にはならないこと，⑤データ不提供の申し出がない場合には，回答を持ってこれに同意したものとすること――の５点である。

本論文は，金城学院大学IR室がこのように実施した調査結果について，同室より匿名加工情報として提供されたものに基づいた研究報告である。

⑶　アンケート内容（補足資料参照）

「コロナ禍におけるアンケート」の設問内容は，金城学院大学で2012年度以来３年ごとに実施してきた「学習と学生生活に関するアンケート」をベースに改定したものである。

大学生活全般の質問として，「本学が期待通りだったか」「全体的な満足感」「支援体制への満足度」「保護者の満足度」などについて尋ねた。さらに，『学生生活の満足度』を４件法で尋ねた。加えて，「サークル等への参加状況」「経済状況の変化」などを尋ねた。学生のメンタルヘルス関連では，能力や将来，生活上の不安，コロナ感染への不安などについて，『学生生活の不安や悩み』に関する項目として４件法で尋ねた。さらに，ストレス度を把握するため，厚生労働省のストレスチェック制度の領域Ｂ『ストレスによっておこる心身の反応』（厚生労働省，2019）を学生用に文言を改定し使用した。

授業関連の質問では，「教員とのコミュニケーション」「授業への参加度」について質問した。さらに，『コロナ禍における遠隔授業や対面授業への満足度』を４件法にて尋ねた。

コロナ対策関連の質問では，金城学院大学のコロナウイルス感染拡大抑止対応に関する項目についてを４件法にて尋ねた。

このほかに，就職関連の質問，学年，居住状況（自宅か下宿かなど）を尋ねた。

本論文では，学生の学習や学生生活での現状や希望・コロナ禍における状況変化などを把握し，今後の改善や有効な学生支援を模索するという目的に鑑み，上記の内容の中でも特に金城学院大学への期待・支援体制・学生生活の満足度・学生生活の不安や悩み・ストレスによっておこる心身の反応・教員とのコミュニケーションなどを中心に分析した。

Ⅲ．結果

⑴　尺度構成の検討（table 1, 2, 3, 4）

本アンケートでは，コロナ禍での状況が把握できるように質問項目を設定し，因子分析を用いて尺度構成の検討を行った。データに欠損があったものなどを除き，3,538名分の回答を分析対象とした。分析ソフトはIBMのSPSS（Ver.26）を用いた。

『学生生活に関する満足度』について，主因子法バリマックス回転にて因子分析を行なった（table 1）。固有値の減衰傾向（固有値は2.94→2.23と減少）と解釈の可能性から，２因子構造が妥当と判断した。この２因子で全分散の51.6%が説明可能である。因子負荷量が.50以上の項目を採用した結果，＜学生生活の満足度＞（α＝.85），＜将来性＞（α＝.79）の２因子が抽出され，十分な内的整合性が得られた。

『学生生活の不安や悩み』に関する項目について，因子分析を行なった（table 2）。固有値の減衰傾向（固有値は2.13→2.11→1.44と減少）と解釈の可能性から，３因子構造が妥当と判断した。この３因子で全分散の47.3%が説明可能である。因子負荷量が.45以上の項目を採用した結果，＜生活上の不安＞（α＝.76），＜コロナ感染への不安＞（α＝.87），＜能力・将来への不安＞（α＝.71）の３因子が抽出され，一定の内的整合性が得られた。

授業関連の『コロナ禍における遠隔授業や対面授業への満足度』に関する項目につい

【table 1】Q5『学生生活に関する満足度』に関する因子分析結果

	Ⅰ	Ⅱ	共通性
＜学生生活の満足度＞　α＝ .85			
3　大学での教員との関係に満足している	.68	.23	.51
8　大学に親しみが持てる	.66	.45	.63
2　大学での友人との関係に満足している	.64	.21	.45
10　本学のキャンパスに自分の居場所がある	.62	.36	.51
1　大学での勉学に満足している	.62	.27	.45
4　大学での勉学以外の生活（講義や自主ゼミなどを除く生活）に満足している	.59	.26	.41
＜将来性＞　α＝ .79			
7　大学における勉学は将来の生活や仕事に役立つと思う	.26	.76	.63
6　大学における人間関係は将来の生活や仕事に役立つと思う	.29	.75	.64
5　大学におけ勉学以外の生活は将来の生活や仕事に役立つと思う	.31	.57	.41
＜残余項目＞			
9　本学の学生であることを誇りに思う	.53	.47	.51
平方和	2.92	2.23	5.15
寄与率（%）	50.37	10.56	60.93
	因子間相関	Ⅰ	Ⅱ
	Ⅰ		.60
	Ⅱ		

【table 2】Q10『学生生活の不安や悩み』に関する因子分析結果

	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	共通性
＜生活上の不安＞　α＝ .76				
5　家族か家庭内のこと	.64	.02	.12	.42
6　健康について	.56	.17	.16	.37
8　経済問題（学費・生活費）	.54	.13	.22	.31
7　課外活動について	.51	.18	.27	.37
3　友人などの対人関係	.51	.08	.36	.40
9　異性や性について	.49	.10	.14	.27
＜コロナ感染への不安＞　α＝ .87				
10　自身の学内でのコロナウイルス感染	.16	.83	.12	.73
11　自身の通学途上でのコロナウイルス感染	.11	.83	.13	.72
12　自身の学外における活動でのコロナウイルス感染	.15	.77	.12	.63
＜能力・将来への不安＞　α＝ .71				
2　就職や将来の進路	.17	.15	.67	.49
4　自分の性格や能力について	.43	.09	.59	.54
1　学業上の問題（成績・単位等）	.27	.13	.54	.38
平方和	2.13	2.11	1.44	5.68
寄与率（%）	35.36	15.26	8.90	59.52
	因子間相関	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
	Ⅰ		.32	.55
	Ⅱ			.30
	Ⅲ			

て，因子分析を行なった（table 3）。固有値の減衰傾向（固有値は3.06→2.59→2.16と減少）と解釈の可能性から，３因子構造が妥当と判断した。この３因子で全分散の65.2%が説明可能である。因子負荷量が.55以上の項目を採用した結果，＜対面授業の満足度＞（$\alpha=.92$），＜遠隔授業の満足度＞（$\alpha=.86$），＜学習サポートへの満足度＞（$\alpha=.83$）の３因子が抽出され，十分な内的整合性が得られた。

金城学院大学のコロナウイルス感染拡大抑止対応に関する因子分析の結果（table 4），１因子構造が妥当と判断した。１因子で全分散の54.3%が説明可能である。＜コロナ対応＞（$\alpha=.86$）で十分な内的整合性が得られた。

なお，ストレス度を把握するため使用した厚労省のストレスチェック制度の領域Ｂ『ストレスによっておこる心身の反応』（2019年７月改訂）は標準化されているため，原典の因子をそのまま採用することとした。

これ以降，文中や図表の「 」は質問の小項目を示し，＜ ＞は因子名を表し，『 』は尺度名もしくは大項目を示している。

⑵　記述統計の結果（table 5）

上記因子分析に基づいた記述統計の結果をtable 5に示す。

⑶　分散分析の結果（table 6, 7, 8, 9）

コロナ禍の影響をみるため，学年ごとに群分けし，対応のない一要因分散分析を実施した。tableに示した１年生が入学当初よりコロ

【table 3】Q14 授業関連の『コロナ禍における遠隔授業や対面授業への満足度』に関する因子分析結果

	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	共通性
＜対面授業への満足度＞　α＝ .92				
6　対面授業の進め方	.87	.14	.21	.82
5　対面授業の内容	.87	.15	.21	.82
8　対面授業の指定された教材	.77	.15	.31	.71
7　対面授業の課題	.76	.15	.25	.66
＜遠隔授業への満足度＞　α＝ .86				
2　遠隔授業の進め方	.13	.88	.20	.83
1　遠隔授業の内容	.12	.85	.23	.79
3　遠隔授業の課題	.10	.62	.27	.47
4　遠隔授業の指定された教材	.26	.56	.33	.49
＜学習サポートへの満足度＞　α＝ .83				
11　時間割の科目配置の仕方	.24	.22	.68	.57
12　授業におけるメディア教材等の活用	.30	.30	.67	.64
10　シラバスのわかりやすさ	.21	.26	.65	.53
9　学習をサポートしてくれる仕組み（manaba）	.30	.32	.56	.50
平方和	3.06	2.59	2.16	7.81
寄与率（%）	49.09	15.77	8.43	64.29
	因子間相関	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
	Ⅰ		.39	.56
	Ⅱ			.59
	Ⅲ			

【table 4】Q20 本学のコロナウイルス感染拡大抑止対応に関する因子分析結果

	Ⅰ	共通性
＜コロナ対応＞　α＝ .86		
5　保健センターの対応	.80	.64
1　本学のコロナウイルス感染症対策全般	.76	.57
3　クラブ・サークル活動の制限に関する対応	.73	.54
2　教室・施設利用の制限に関する対応	.73	.53
4　金城祭の開催形態の変更	.66	.43
平方和	2.72	2.72
寄与率（%）	63.33	63.33

【table 5】記述統計量

		平均値	標準偏差
「期待通りか」		2.86	0.71
「全体的な満足度」		2.82	0.81
「支援体制」		2.86	0.76
「保護者の満足度」		3.10	0.77
学生生活の不安や悩み	＜学生生活の満足度＞	3.02	0.61
	＜将来性＞	3.26	0.61
学生生活に関する満足度	＜能力・将来への不安＞	2.74	0.74
	＜生活上の不安＞	1.91	0.60
	＜コロナ感染への不安＞	2.74	0.89
ストレスによっておこる心身の反応	＜活気＞	7.75	2.45
	＜イライラ感＞	6.06	2.42
	＜疲労感＞	7.04	2.61
	＜不安感＞	6.86	2.58
	＜抑うつ感＞	13.49	4.74
	＜身体愁訴＞	19.46	6.59
	＜ストレス合計＞	60.66	16.81
「教員とのコミュニケーション」		2.38	0.59
「授業への出席」		3.77	0.51
コロナ禍における遠隔授業や対面授業への満足度	＜対面授業への満足度＞	3.17	0.65
	＜遠隔授業への満足度＞	2.74	0.69
	＜授業のサポートへの満足度＞	2.96	0.62

【table 6】「本学が期待通りだったか」（Q1-1）における学年別の分散分析結果

	1年生 (n=813)	2年生 (n=882)	3年生 (n=802)	4年生 (n=838)	5年生 (n=111)	6年生 (n=91)	*F*	多重比較
本学が期待通りだったか	2.43（.77）	2.93（.62）	2.99（.63）	3.05（.67）	3.06（.54）	2.96（.66）	91.02***	1年生＜2,3,4,5,6年生 2年生＜4年生

※（　）内は標準偏差　　*** $p < .001$

※※効果量 $\eta 2$=.114

【table 7】<学生生活の満足度>（Q5-1.2.3.4.8.10）における学年別の分散分析結果

	1年生 (n=813)	2年生 (n=882)	3年生 (n=802)	4年生 (n=838)	5年生 (n=111)	6年生 (n=91)	*F*	多重比較
学生生活の満足度	2.74（.66）	3.03（.55）	3.10（.54）	3.15（.61）	3.25（.54）	3.14（.64）	52.19***	1年生＜2,3,4,5,6年生 2年生＜４,5年生

※（　）内は標準偏差　　*** $p < .001$

※※効果量 $\eta 2$=.069

【table 8】<生活上の不安>（Q10-3.5.6.7.8.9）における学年別の分散分析結果

	1年生 (n=813)	2年生 (n=882)	3年生 (n=802)	4年生 (n=838)	5年生 (n=111)	6年生 (n=91)	*F*	多重比較
生活上の不安	2.15（.60）	2.00（.57）	1.86（.58）	1.71（.58）	1.85（.61）	1.79（.57）	50.54***	2,3,4,5,6年生＜1年生 3,4年生＜2年生 3年生＜４年生

※（　）内は標準偏差　　*** $p < .001$

※※効果量 $\eta 2$=.067

【table 9】「教員とのコミュニケーション」（Q12）における学年別の分散分析結果

	1年生 (n=813)	2年生 (n=882)	3年生 (n=802)	4年生 (n=838)	5年生 (n=111)	6年生 (n=91)	*F*	多重比較
教員とのコミュニケーション	2.15（.60）	2.29（.57）	2.42（.56）	2.58（.54）	2.59（.53）	2.74（.49）	64.62***	1年生＜2,3,4,5,6年生 2年生＜3,4,5,6年生 3年生＜4,5,6年生

※（　）内は標準偏差　　*** $p < .001$

※※効果量 $\eta 2$=.084

ナ禍の影響で通学できていない2020年度入学生である。

「本学が期待通りだったか」という質問項目について，学年の有意な群間差が認められた（$F(5,3532)=91.02, p<.001, \eta^2=.114$）。多重比較を行ったところ2020年度入学生（１年生）がどの学年と比べても有意に期待通りでなかったと回答していた。

さらに，＜学生生活の満足度＞についても，学年の有意な群間差が認められた（$F(5,3532)=52.19, p<.001, \eta^2=.069$）。多重比較を行ったところ, 2020年度入学生（１年生）がどの学年と比べても有意に低かった。

＜生活上の不安＞も，学年の有意な群間差が認められた（$F(5,3532)=50.54, p<.001, \eta^2=.067$）。多重比較を行ったところ2020年度入学生（１年生）がどの学年と比べても有意に高かった。

学生と「教員とのコミュニケーション」に関する分散分析結果，学年の有意な群間差が認められた（$F(5,3532)=64.62, p<.001, \eta^2=.084$）。多重比較を行ったところ，2020年度入学生（１年生）がどの学年に比べても有意にコミュニケーションが取れていないと感じており，学年があがるほどコミュニケーションがとれていると感じていた。

⑷　相関分析の結果（table 10）

上記の因子分析の結果を用いて，相関分析を行なった。

⑸　因果関係の検討（table 11, 12, 13, 14, 15, 16, 17, 18）

相関分析の結果をもとに，回帰分析を行なった。

＜学生生活の満足度＞が「本学が期待通りだったか」に影響を大きく与えていた（$\beta=.50$）。さらに，「支援体制」（$\beta=.20$），「教員とのコミュニケーション」（$\beta=.17$）が「本学が期待通りだったか」に影響を与えていた。

＜学生生活の満足度＞には，特に「教員とのコミュニケーション」（$\beta=.26$）と「支援体制」（$\beta=.26$）が大きな影響を与えていた。

学生の不安に影響を与える要因として，「教員とのコミュニケーション」は＜能力・将来への不安＞を大きく和らげていた（$\beta=-.22$）。＜生活上の不安＞には＜学習サポートへの満足度＞（$\beta=-.15$）や「教員とのコミュニケーション」（$\beta=-.14$）が影響を与え，不安を和らげていた。また,「教員とのコミュニケーション」が＜コロナ感染への不安＞を有意に低下させていた（$\beta=-.10$）。

学生のストレス度に影響を与える要因として，＜学生生活の満足度＞が高いとストレス度を低下させていた（$\beta=-.38$）。一方，ストレス度を高めるのは＜生活上の不安＞（$\beta=.38$），次いで＜能力・将来への不安＞（$\beta=.24$）であり，＜コロナ感染への不安＞の影響は小さかった。

⑹　構造方程式モデリング（Structural equationmodeling：SEM）の結果（figure 1, 2）

ストレスに影響を与える要因について，構造方程式モデリングによる分析を行なった。なお，ストレス合計点とは,『ストレスによっておこる心身の反応』の合計点である。分析ソフトはIBMのAmos（Ver.26）を用いた。その結果，figure 1, 2のような結果が得られた。

「教員とのコミュニケーション」は＜生活上の不安＞を和らげ，結果的に,『ストレスによっておこる心身の反応』の合計点，つまりストレス度を下げていた。さらに,「教員とのコミュニケーション」がとれていると,「支援体制」と＜学生生活の満足度＞に影響を与え，金城学院大学が期待通りであると感じることが明示された。

【table 10】コロナ禍における学習と学生生活アンケートに関する相関分析結果

				学生生活に関する満足度		学生生活の不安や悩み			ストレスによっておこる心身の反応									コロナ禍における遠隔授業や対面授業への満足度		
	「期待通りか」	「全体的な満足度」	「支援体制」	「保護者の満足度」	〈学生生活の満足度〉	〈将来性〉	〈能力・将来への不安〉	〈生活上の不安〉	〈コロナ感染への不安〉	〈活気〉	〈イライラ感〉	〈疲労感〉	〈不安感〉	〈抑うつ感〉	〈身体愁訴〉	〈ストレス合計〉	「教員とのコミュニケーション」	「授業への出席」	〈対面授業への満足度〉	〈遠隔授業への満足度〉	〈学習サポートへの満足度〉
「期待通りか」Q1-1																					
「全体的な満足度」Q2	.43 **																				
「支援体制」Q3-1	.33 **	.54 **																			
「保護者の満足度」Q4	.49 **	.47 **	.48 **																		
〈学生生活への満足度〉Q5	.53 **	.58 **	.45 **	.52 **																	
〈将来性〉Q5	.35 **	.37 **	.33 **	.36 **	.60 **																
〈能力・将来への不安〉Q10	-.24 **	-.25 **	-.18 **	-.25 **	-.38 **	-.20 **															
〈生活上の不安〉Q10	-.25 **	-.24 **	-.20 **	-.30 **	-.41 **	-.19 **	.55 **														
〈コロナ感染への不安〉Q10	-.10 **	-.09 **	-.11 **	-.13 **	-.13 **	-.03	.30 **	.32 **													
〈活気〉Q11	-.24 **	-.34 **	-.23 **	-.26 **	-.43 **	-.32 **	.33 **	.33 **	.09 **												
〈イライラ感〉Q11	-.21 **	-.22 **	-.20 **	-.21 **	-.26 **	-.16 **	.29 **	.36 **	.16 **	.23 **											
〈疲労感〉Q11	-.20 **	-.21 **	-.21 **	-.21 **	-.27 **	-.15 **	.38 **	.39 **	.19 **	.35 **	.56 **										
〈不安感〉Q11	-.13 **	-.19 **	-.16 **	-.16 **	-.23 **	-.12 **	.42 **	.41 **	.20 **	.32 **	.55 **	.68 **									
〈抑うつ感〉Q11	-.23 **	-.28 **	-.24 **	-.26 **	-.36 **	-.23 **	.46 **	.46 **	.19 **	.44 **	.57 **	.71 **	.72 **								
〈身体愁訴〉Q11	-.19 **	-.19 **	-.19 **	-.21 **	-.27 **	-.19 **	.27 **	.41 **	.14 **	.27 **	.48 **	.58 **	.53 **	.59 **							
〈ストレス合計〉Q11	-.26 **	-.29 **	-.26 **	-.28 **	-.38 **	-.25 **	.45 **	.51 **	.20 **	.51 **	.70 **	.82 **	.79 **	.88 **	.84 **						
「教員とのコミュニケーション」Q12	.28 **	.28 **	.24 **	.28 **	.41 **	.25 **	-.29 **	-.22 **	-.14 **	-.19 **	-.13 **	-.15 **	-.10 **	-.20 **	-.11 **	-.18 **					
「授業への出席」Q13	.08 **	.13 **	.07 **	.11 **	.16 **	.14 **	-.17 **	-.11 **	.02	-.12 **	-.07 **	-.14 **	-.06 **	-.18 **	-.12 **	-.16 **	.11 **				
〈対面授業への満足度〉Q14	.21 **	.24 **	.29 **	.25 **	.32 **	.29 **	-.13 **	-.19 **	-.12 **	-.17 **	-.13 **	-.12 **	-.11 **	-.16 **	-.15 **	-.19 **	.22 **	.05 **			
〈遠隔授業への満足度〉Q14	.30 **	.44 **	.41 **	.34 **	.42 **	.28 **	-.26 **	-.23 **	-.09 **	-.23 **	-.23 **	-.24 **	-.20 **	-.26 **	-.19 **	-.28 **	.30 **	.14 **	.39 **		
〈学習サポートへの満足度〉Q14	.29 **	.35 **	.42 **	.35 **	.43 **	.35 **	-.23 **	-.27 **	-.11 **	-.25 **	-.20 **	-.19 **	-.16 **	-.24 **	-.22 **	-.27 **	.27 **	.11 **	.56 **	.59 **	

**p < .01

【table 11】「本学が期待通りだったか」と『学生生活に関する満足度』との関連

従属変数：「本学が期待通りだったか」 独立変数	標準偏回帰係数 β
＜学生生活の満足度＞	.50 ***
＜将来性＞	.05 *
R^2	.28 ***
n＝3538	* $p < .05$, *** $p < .001$

【table 12】「本学が期待通りだったか」に影響を与える要因

従属変数：「本学が期待通りだったか」 独立変数	標準偏回帰係数 β
「教員とのコミュニケーション」	.17 ***
「支援体制」	.20 ***
＜対面授業への満足度＞	.03
＜遠隔授業への満足度＞	.11 ***
＜学習サポートへの満足度＞	.08 ***
R^2	.17 ***
n＝3538	*** $p < .001$

【table 13】＜学生生活の満足度＞に影響を与える要因

従属変数：学生生活の満足度 独立変数	標準偏回帰係数 β
＜対面授業への満足度＞	.07 ***
＜遠隔授業への満足度＞	.13 ***
＜学習サポートへの満足度＞	.13 ***
「教員とのコミュニケーション」	.26 ***
「支援体制」	.26 ***
R^2	.36 ***
n＝3538	*** $p < .001$

【table 14】＜能力・将来への不安＞に影響を与える要因

従属変数：＜能力・将来への不安＞ 独立変数	標準偏回帰係数 β
＜対面授業への満足度＞	.03
＜遠隔授業への満足度＞	−.14 ***
＜学習サポートへの満足度＞	−.08 ***
「教員とのコミュニケーション」	−.22 ***
「支援体制」	−.05 *
R^2	.12 ***
n＝3538	* $p < .05$, *** $p < .001$

【table 15】＜生活上の不安＞に与える要因

従属変数：＜生活上の不安＞ 独立変数	標準偏回帰係数 β
＜対面授業への満足度＞	−.04 *
＜遠隔授業への満足度＞	−.05 *
＜学習サポートへの満足度＞	−.15 ***
「教員とのコミュニケーション」	−.14 ***
「支援体制」	−.08 ***
R^2	.10 ***
n＝3538	* $p < .05$, *** $p < .001$

【table 16】＜コロナ感染不安＞に与える要因

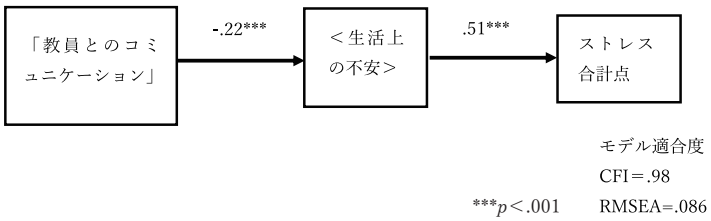
従属変数：コロナ感染不安	標準偏回帰係数
独立変数	β
＜対面授業への満足度＞	−.07 ***
＜遠隔授業への満足度＞	−.00
＜学習サポートへの満足度＞	−.01
「教員とのコミュニケーション」	−.10 ***
「支援体制」	−.06 **
R^2	.03 ***
n＝3538	** $p < .01$, *** $p < .001$

【table 17】＜ストレス合計点＞に＜学生生活の満足度＞が与える影響

従属変数：＜ストレス合計点＞	標準偏回帰係数
独立変数	β
＜学生生活の満足度＞	−.38 ***
R^2	.15 ***
n＝3538	*** $p < .001$

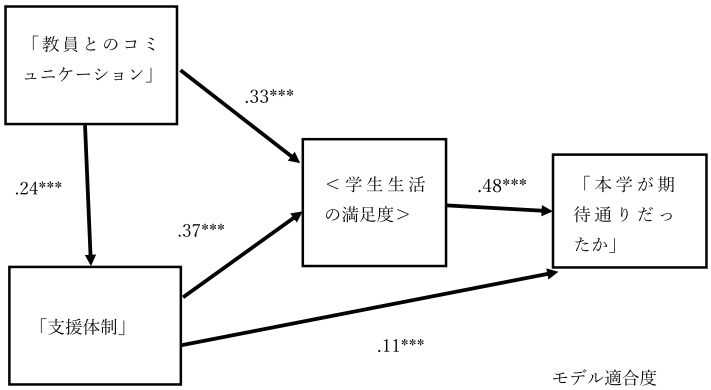
【table 18】＜ストレス合計点＞に影響を与える不安要因

従属変数：＜ストレス合計点＞	標準偏回帰係数
独立変数	β
＜コロナ感染への不安＞	.01
＜能力・将来への不安＞	.24 ***
＜生活上の不安＞	.38 ***
R^2	.30 ***
n＝3538	*** $p < .001$



モデル適合度
CFI＝.98
***p＜.001　RMSEA=.086

【figure 1】ストレスに影響を与える要因（共分散構造分析の結果）



モデル適合度
CFI＝1.00
***p＜.001　RMSEA=.062

【figure 2】「本学が期待通りだったか」に影響を与える要因（共分散構造分析の結果）

Ⅳ．考察

⑴　大学への満足度

「本学が期待通りだったか」については，統計分析の結果，１年生がどの学年と比べても有意に期待通りでなかったと回答していることが明らかになった。また，１年生がどの学年と比べても有意に＜学生生活の満足度＞が低いことが明示された。回帰分析の結果から，＜学生生活の満足度＞が「本学が期待通りだったか」に影響を大きく与えていた。さらに，「支援体制」「教員とのコミュニケーション」が「本学が期待通りだったか」に影響を与えていた。加えて，＜学生生活の満足度＞には，特に「教員とのコミュニケーション」と「支援体制」が大きな影響を与えていた。

なお，別途行なった単純集計から約75%が期待どおりと回答しているが，25%にあたる学生が期待通りではないと回答していた。さらに，2020年度の大学への「全体的な満足感」についても約30%の学生が満足していないと答え，「支援体制」についても27%の学生が十分でないと感じていた。

以上のように，教員がコミュニケーションを直接取ることと学生への丁寧な支援が，金城学院大学への期待や満足感に影響を与えると推察された。

⑵　学生の不安

統計分析の結果，１年生がどの学年と比べても有意に＜生活上の不安＞が高かった。なお，自由記述では特に就職や将来への不安を抱える学生が多かった。一方，回帰分析の結果から，「教員とのコミュニケーション」は＜能力・将来への不安＞を大きく和らげていた。＜生活上の不安＞には＜学習サポートへの満足度＞や「教員とのコミュニケーション」が影響を与え，不安を和らげていた。また，「教員とのコミュニケーション」が＜コロナ感染への不安＞を有意に低下させていた。

これらより，コロナ禍という特異的な状況の中で，友人・大学職員・教員から対面で得られるちょっとした情報や不安の共有がなされないため，不安が高くなっていたと考えられた。特に１年次生は気軽に聞くことができる大きな情報源である友人関係（横のつながり）が希薄なため，生活上でも不安が高いと推察された。一方で，大学への満足度のみならず，学生の不安においても教員とのコミュニケーションが学生の不安を和らげる効果が高いことが明らかになった。

⑶　学生のストレス状況

回帰分析の結果から，＜学生生活の満足度＞が高いとストレス度を低下させていた。一方，ストレス度を高めるのは＜生活上の不安＞次いで＜能力・将来への不安＞であり，＜コロナ感染への不安＞の影響は小さかった。今回のようなコロナ禍という特異的な状況下でも，学生生活への満足度を向上させることが学生のメンタルヘルスに大きく影響することが明らかとなった。

⑷　教員とのコミュニケーション

統計分析の結果，2020年度生（１年次生）がどの学年に比べても有意にコミュニケーションが取れていないと感じており，学年があがるほどコミュニケーションがとれていると感じていた。このことから，アドバイザー制度などの細やかな教員のサポートや指導が有効に機能していることが伺えた。一方で，そのような機会が全くなかった2020年度生（１年次生）は，有意にコミュニケーションが取れていないと感じており，オンライン上での面談などを繰り返していても，対面で得られるほどの効果が期待できないと考えられた。

⑸　総合的な分析（構造方程式モデリングの結果から）

「教員とのコミュニケーション」は＜生活

上の不安＞を和らげ，ストレス度を下げていた。さらに，「教員とのコミュニケーション」がとれていると，「支援体制」と＜学生生活の満足度＞に影響を与え，その結果，金城学院大学が期待通りであると感じていた。これらより，教員とのコミュニケーションが重要であることが明示された。

Ⅴ．結語

「コロナ禍におけるアンケート」は，金城学院大学IR室を中心として，学生の学習や学生生活での現状や希望，コロナ禍における状況変化などを把握し，今後の改善や対策検討の参考にする目的で実施されたものである。本論文では，そのうちの学部学生を対象としたアンケートから類推されるCOVID-19による影響と学生生活における様々な要因との因果関係を分析し，今後の改善や有効な学生支援の方法について考察した。対象は2020年度に金城学院大学５学部に在籍していた学生5,111名で，Google Formを用いてデータを取集し，因子分析・分散分析・相関分析・回帰分析・構造方程式モデリングなどの分析を行なった。その結果，教員とのコミュニケーションは学年が上がるほど取れていると回答しており，アドバイザー制やオフィスアワーなどを用いた金城学院大学教員の学生支援に対する努力の成果が明示された。さらに，因果関係の検討結果からは，コロナ禍という特異的な状況下でも学生生活への満足度を向上させることが学生のメンタルヘルスに大きく影響することが明らかとなった。さらに，構造方程式モデリングの結果から，教員とのコミュニケーションが取れていることが不安やストレスを軽減し，大学への満足度につながり期待通りであると感じると考察された。教員の学生への直接的な関わりが有効な支援であり，学生に大きな影響を与えることが示されたと言える。

謝辞

本論文の内容は，2021年６月６日に開催された大学教育学会第43回大会にて発表した内容を加筆訂正したものです。ご意見等をいただいた先生方に感謝申し上げます。

本論文のデータ収集・分析，その後の発表においてご理解と多大なるご支援をいただきました金城学院大学の小室尚子学長，丸山智美副学長，高野祐二前副学長，岩崎公弥子学長補佐，諏訪徹様，原田望様，置田牧人様，磯部広明様に深謝申し上げます。また，ご助力くださったIR室職員の中澤美帆様に心からの感謝を申し上げます。

参考文献

江原謙介・藤本淳也・福田一儀・松永敬子・鳥山稔・河野真輝（2021）．大学生の新型コロナウイルス感染症に対する関心についての予備的考察　スポーツ産業学研，31(2)，183-196. https://doi.org/10.5997/sposun.31.2_183

広瀬環・屋嘉比章紘・小野田公・久保晃（2020）．新型コロナウイルス感染症による活動制限が理学療法学科学部生における大学生活の不安感に及ぼす影響，授業，臨床実習，就職活動に着目した報告　理学療法科，35(6)，911-915. https://doi.org/10.1589/rika.35.911

北條睦実子・戸城美佑・遠山美樹・中里英史・古川真守・城越望・下村昂平・森脇真人・石原慶一（2020）．コロナ禍下における大学生の主観的幸福度　京都大学高等教育研究，26，41-50.

飯田昭人・水野君平・入江智也・西村貴之・川﨑直樹・斉藤美香（2021）．新型コロナウイルス感染拡大が大学生に及ぼす影響（第１報），～北海道内の大学への調査結果から～　北翔大学生涯スポーツ学部研究紀，12，147-158. https://doi.org/10.24794/00003284

梶谷康介・土本利架子・佐藤武（2021）．新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックが大学生のメンタルヘルスに及ぼす影響,文献および臨床経験からの考察　九州大学健康科学,

43，1-13.
https://doi.org/10.15017/4372005
厚生労働省（2019）労働安全衛生法に基づくストレスチェック制度 実施マニュアル
https://www.mhlw.go.jp/bunya/roudoukijun/anzeneisei12/index.html
末次美樹・秋田浩一・江口淳一・下谷内勝利・鈴木淳平・竹田幸夫・出井章雅・深井正樹・柳浩二郎・山口良博・岩本哲（2021）．コロナ禍における大学生の健康状態と運動実施に関する調査報告，―体育に関連する科目履修者を対象として―　駒澤大学総合教育研究部紀要，15，41-60.

補足資料：アンケート項目

【大学生活全般】

大項目	小項目
1	1　入学後、本学は、あなたの期待どおりでしたか。 2　Ｑ１-1で回答した内容の理由は何ですか。
2	今年度、本学での教育・学習・学生生活等に関して、全体として「良い」「楽しい」と感じるなど、満足していますか。
3	1　今年度、大学側のサポート（支援）体制やサービス内容･メニューは、全般的に見て充分だと思いますか。 2　Ｑ３-1で「4.充分でない」とお答えの方へ。その理由は何ですか。
4	あなたの保護者は、あなたの入学後、本学に満足していると思いますか。
5	あなたの本学における学生生活について伺います。今年度、以下のようなことがらについてあなた自身、どのくらいあてはまりますか。各項目ごとにあてはまるものを選択して下さい。 1　大学での勉学に満足している 2　大学での友人との関係に満足している 3　大学での教員との関係に満足している 4　大学での勉学以外の生活（講義や自主ゼミなどを除く生活）に満足している 5　大学における勉学は将来の生活や仕事に役立つと思う 6　大学における人間関係は将来の生活や仕事に役立つと思う 7　大学における勉学以外の生活は将来の生活や仕事に役立つと思う 8　大学に親しみが持てる 9　本学の学生であることを誇りに思う 10　本学のキャンパスに自分の居場所がある
6	現在、あなたは学内のクラブ・サークル活動に参加していますか。
7	現在、あなたは学外のクラブ・サークル活動に参加していますか。
8	今年度、コロナウイルス感染症の影響によるアルバイト状況の変化はありましたか。
9	今年度、コロナウイルス感染症の影響による家庭の経済環境の変化はありましたか。
10	あなたは現在、以下の項目について学生生活でどれくらい不安や悩みを感じていますか。 1　学業上の問題（成績・単位等） 2　就職や将来の進路 3　友人などの対人関係 4　自分の性格や能力について 5　家族か家庭内のこと 6　健康について 7　課外活動について 8　経済問題（学費・生活費） 9　異性や性について 10　自身の学内でのコロナウイルス感染 11　自身の通学途上でのコロナウイルス感染 12　自身の学外における活動でのコロナウイルス感染
11	最近1 か月間のあなたの状態についてうかがいます。最もあてはまるものを選択してください。 1　活気がわいてくる 2　元気がいっぱいだ 3　生き生きする 4　怒りを感じる 5　内心腹立たしい 6　イライラしている 7　ひどく疲れた 8　へとへとだ 9　だるい 10　気がはりつめている 11　不安だ 12　落ち着かない 13　ゆううつだ 14　何をするのも面倒だ

11	15　物事に集中できない 16　気分が晴れない 17　勉強が手につかない 18　悲しいと感じる 19　めまいがする 20　体のふしぶしが痛む 21　頭が重かったり頭痛がする 22　首筋や肩がこる 23　腰が痛い 24　目が疲れる 25　動機や息切れがする 26　胃腸の具合が悪い 27　食欲がない 28　便秘や下痢をする 29　よく眠れない
【授業関連】	
12	今年度、あなたは、教員とコミュニケーションがとれていますか。
13	今年度、あなたは、履修登録した授業にどのくらい出席していますか。出席とは対面授業の出席のみならず、遠隔授業への参加も含みます。
14	あなたは、コロナ禍にある今年度において以下の項目についてどれくらい満足していますか。各項目ごとにあてはまるものを選択して下さい。 1　遠隔授業の内容 2　遠隔授業の進め方 3　遠隔授業の課題 4　遠隔授業の指定された教材 5　対面授業の内容 6　対面授業の進め方 7　対面授業の課題 8　対面授業の指定された教材 9　学習をサポートしてくれる仕組み(manaba) 10　シラバスのわかりやすさ 11　時間割の科目配置の仕方 12　授業におけるメディア教材等の活用
15	あなたは、コロナ禍での授業形態について、どの方法が適切だと考えていますか。
16	遠隔授業では学習の効果があがらないと感じた授業は何ですか。(複数回答可)
17	今年度前期には１日平均どれぐらい勉強しましたか。（授業、課題、授業以外の学習すべて含む）
18	今年度前期の遠隔授業では、授業１科目について、動画等の視聴とその授業の課題を合わせて、おおよそどれぐらいの時間がかかりましたか。
19	遠隔授業について、積極的に取り組むことができましたか
【コロナ対策】	
20	本学のコロナウイルス感染症拡大抑止対応について、以下の項目についてどれくらい満足していますか。 各項目ごとにあてはまるものを選択してください。 1　1.本学のコロナイウイルス感染症対策全般 2.教室・施設利用の制限に関する対応 3.クラブ・サークル活動の制限に関する対応 4.金城祭の開催形態の変更 5.保健センターの対応 2　Ｑ２０-1で「どちらかといえば不満である」「不満である」とお答えの方へ。その理由は何ですか。
21	今年度、コロナについて、あなたの保護者への本学からの情報提供は充分だと思いますか。
【就職】	
22	1　大学の就職支援（ガイダンス・情報提供・説明会など）に対して満足していますか。 2　Ｑ２２-1で「4.どちらかといえば不満である」「5.不満である」とお答えの方へ。その理由は何ですか。
23	あなたは、大学の就職相談（窓口相談・模擬面接・履歴書添削など）に対して満足していますか。